

# 公園をみる・観る

## ～ 春は駆け足で ～

平成 26 年度最後の行事となる「ヨシ焼き」が終った。今回はビジターセンターにもっとも近い区域が焼かれたので、園路に出ると一度に視界がひらけ明るい印象の風景が広がっている。公園に春が来た!!

3 月も下旬ともなると陽の光が違うのか池の水面が煌めき、木々の葉も光を受けて艶やかに輝いている。中でも春を真っ先に高唱する植物はイヌコリヤナギではないかと思う。イヌコリヤナギは和名では犬行李柳と書く。昔からコリヤナギというヤナギ属の落葉低木



から行李を作っているが、枝が弱くて行李に出来ないコリヤナギに似た木、ということからイヌコリヤナギと呼ばれ、役に立たない柳と貶められている。しかしイヌコリヤナギの樹皮を水洗いし日に干したものを解熱に使うという民間療法があると灰聞したこともあり、それが正しければ不当な命名と抗議の声が聞こえてきそうな気もする（イヌにも失礼だろう）。2 月には茶色の硬そうな冬芽が枝にへばりついていてイヌコリヤナギだが、3 月になっていっせいに開花した。イヌコリヤナギは雌雄異株で、公園北側のクリーク沿いの株は雄株。緑の葉に花序の赤い葯が黄色い花粉を出し雄花がミツバチの訪問を待っている。観ていると生命力の盛んな放出が感じられる。

関係者以外立ち入り禁止の場所ではあるが自生したヤマザクラの若木も一、二輪花をつけ、もうすぐ花見ができそうだ。

春の訪れはトリたちにも伝えられている。サギ類、特にアオサギなどは婚姻色に化粧をし始めている。ツルシギは赤くて長い脚を華やかに操り、旅の途中の羽を休めている。今年は迷鳥オオモズも見られたとか。ウグイスの初鳴きはいつだったかなあ……。

1 月末、ピオトープに産み付けられていたニホンアカガエルの卵はすでに孵ってオタマジャクシとなり、カダヤシたちと仲良く泳いでいる。隣のトンボ池ではトンボの産卵に備えて余分な泥濘を除去する作業も始まった。やがてベッコウトンボの飛翔がはじまる。

春は冬の終わりを待ちかねたように駆け足で、どおーとやって来ている。

こうして春のアイテムが出揃うと、間もなくお待ち兼ねの「きらら浜自然観察公園春まつり」を迎える。

(土×土)